

会議録

1. 会議の名称 図書館協議会
2. 開催日時 令和2年12月2日(水)午前10時30分～12時
3. 開催場所 熊取町立熊取図書館 2階ホール
4. 議題
案件1 委員長・副委員長の選出について
案件2 令和2年度図書館事業中間報告について
案件3 その他

5 公開・非公開の別 全部公開

6 傍聴者数 0人

7 審議会等の概要

●案件1について

委員長に山本委員、副委員長に森本委員が選出された。

●案件2について

【事務局からの説明】

・事前配布資料「令和2年度図書館事業(中間報告)」についての説明と、11月に開催した行事を報告した。

・補足として、児童室の状況と子ども読書活動の報告を行った。

【委員からの主な質問・意見等】

○高齢者の利用はコロナ禍で少なくなっているのか？

⇒臨時休館中は、高齢者からかなり予約の問合せがあり、たくさん貸し出した。5月20日からの再開直後は、高齢者の来館が少なく感じたが、サービスを徐々に緩和する中で、現在はほぼ戻っていると思われる。

○検温器は、町内全体の公共施設で設置しているのか？

⇒町内の社会教育施設、煉瓦館・公民館・図書館に一齐に入れた。(体育館は指定管理者が設置)

○地域の実情をよくつかんで柔軟に対応できて良かったと思う。住民に他所はどういう対応をして、自館はどういう対応をしたのか知らせないと、あれば便利だなで終わってしまう。住民の中の図書館に対する信頼とか評価が定着していないと持続できないので、ぜひ広がるようにご尽力頂きたい。

●案件3 その他について

【事務局からの説明】

・当日配付資料「泉南地域図書館の相互利用について」の説明をした。

【委員からの質問・意見等】

○広域利用で、泉佐野市の利用が多い理由は？

⇒泉佐野市の図書館よりも熊取の図書館の方が近い地域の住民がたくさんいるので、その地域の住民の利用が多いと思われる。

○学校図書館の状況は？

⇒今年度北小と北中が大阪府の学校図書館を活用した事業のモデル校になった関係で、調べ学習の依頼が急激に増え、貸出の冊数が増えている。学校図書館も2学期からは借りて帰れるようになったので、通常にはほぼ戻っている状況。中学校についても行事等始めていると言う報告を受けている。

○大学はコロナが収束した後も教育の内容や授業の仕方は以前のように戻らないし戻さないとされており、今回の経験を踏まえて新しい形になってきているが、図書館業界として元に戻すという方向性なのか、それとも何か違う動きがあるのか。

⇒電子図書館が、大阪府内での導入が現在9団体あるうち、コロナ禍の後で4団体が導入されており、今回のコロナ禍の中で経験を踏まえて検討していかなければならないと思っている。電子図書館は、当然非来館型サービス・職員負担の軽減といったメリットもあるが、今の段階では時期尚早と考えているが、近い将来には何らかの検討した答えを出していく必要がある。

○コロナ禍で全体の予算が減額となり、いろいろな図書館で聖域の図書費を減らしていく状況がある。特に子どもたちにとって、絵本を電子図書で読むことの可否は検証はされていないが、本を開いて見る・読んであげる・感じる事が大切で、対面でコミュニケーションをどんなふうにして取れるかは、コロナ禍での課題。電子図書をいち早く入れた近隣の図書館では、利用が増えたと言っているが利用が少なかったのが少し増えただけで、経費の面では効率よくなっていないと思われる。しかし、地域資料のデジタル化は進めないといけないと思う。

⇒電子図書館は、図書館に来て本棚から本を取ったりとか、これいいなと借りていこうというような本との出会いが少なくなる懸念があるので、メリットデメリットを見極めながら導入について考えていきたい。

○図書館に来て本を見て本の出会いがあるのは、その経験があるからそう思うわけで、最初から電子図書というツールしか経験していなかったら、人間のでき方が変わってくる。山際寿一さん(ゴリラの研究者、元京都大学総長)が出している本に、人間は対面的な関係の中で言語を生み出しているいろんな人間の文化を生み出してきた歴史があるのに、その上で今まではITをどうするかという話をしてきたけど、対面的な人間の経験がないものが次の世代をもし作るとなると、全く違う話になってくるので、原理的な議論をちゃんとしないと、社会に大変化が起こる。それが人間にとっていいのかどうかということを考えないといけない。地域の実態から議論していくことが大切だと思うので、ぜひ継続的にいろんな変化する情報を出し合っていければと思う。

⇒図書館は全体的に利用者数は減っている中で、唯一増えているのが予約。コロナがあつて余計に増えているが、コロナがなくても予約だけはずっと増えていた。インターネットが普及して検索して自分の欲しい本を1-Clickで予約し、図書館にやってくるその予約した本だけを持って帰る。図書館の中の館内をウロウロして本に出会うことが減っているように思う。本に出会ってもらえるようにするため、館内の至るところでいろんなテーマで年間約200～300回の展示をしている。そこでできるだけ目に留めてもらって、借りてもらえるように工夫をしているが、何とかして持っている資料を活用できるよう模索していきたい。

○高齢者の中にはスマホやタブレットが出てから電子図書を読む人が増えている。好きな時に呼び出して読めるし、タブレットを使うとかなり大きな画面で見やすい。

○託児ルームを運営してる中で、子どもの睡眠の質がすごく悪い。生活サイクルももちろんだが、恐らく電子的なものに触れる機会がすごく多くなっていることが原因と思う。就学前は特に電磁波が脳に影響があると感じており、コロナ禍でも直接本に触れる方がいいと思うので、いろんな対応をしていただきたい。

○小児学会でも脳の前頭葉の発達しなくて大変な状況になるから、2歳まではタブレットやスマホやビデオに気をつけましょうと出している。

○宅配の貸出冊数は増えていると思うが、何人ぐらい？

⇒現在のところ、宅配に行っているのは2件。元々よく図書館を利用されていたが、お体の具合で来れなくなったから宅配を利用されているため、宅配の貸出冊数は増えている。今後宅配件数が増えていく可能性はあるが、今のところ横ばいの状況。

○宅配は増えそうなので、その時に図書館員がいちいち行くというシステムにはならないだろうから、図書館と利用者を媒介する手段をどういうふうに作り上げていくか、住民の自主的な共同手段とかを考えなければいけない。

次回会議は、後日調整

8 審議会の情報	名称	図書館協議会
	根拠法令等	図書館法、図書館条例
	設置期間	平成6年4月1日～
	所掌事項	図書館の運営に関すること
	委員数	10名

9 担当課 図書館